

第9回 (仮称) 岩槻人形会館開設準備委員会 議事録

- 1 日 時 平成25年3月4日(月) 10:00~11:40
- 2 会 場 仲町公民館
- 3 出席者 【委員】林委員長、是澤副委員長、村上委員、大越委員、
田島委員、戸塚委員、井藤委員、花野井委員
【事務局】市民・スポーツ文化局 和田局長
スポーツ文化部 野間部長、桑原参与
文化施設建設準備室 鈴木室長、川田主査、
菅原学芸員、平井学芸員

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 局長あいさつ
- (3) 議 題
- ①報告
- ア. 人形会館整備事業の現況報告
- イ. 市所蔵品展(雛の宴Ⅱについて)
- ②議題
- ア. 展示設計について
- イ. 資料調査等について
- ウ. 支援組織づくりについて
- (4) その他
- (5) 閉 会

5 議題について

(1) 展示設計について

委員長：展示設計について、事務局より説明願います。

事務局：(展示設計について説明を行う)

委員長：当初の計画を見直し、変更のシナリオが作成された。大きく変わったのはプロローグのところ。展示室の中には大きな変更はない。これまでの調査の中で培ってきた資料を活かすために、岩槻の人形産業の展示スペースを設けた。何年間の検討の中で、こういった案が生まれた。G委員から補足があればお願いしたい。

G委員：取り立ててないが、シンプルな案になったという印象である。収集した資料と合わせて、展示構成を考えないといけないので、節句と古典人形を中心している。それが収蔵品の特徴である。岩槻にどのようにして人形文化が流れ、定着したのかは、京都や江戸の人形文化を抜きには語れない。例えば江戸で生まれた木目込み人形が、岩槻の伝統産業に指定されている。岩槻にどう根付いていったか、現代の人形文化を俯瞰できる内容だと思う。

委員長：検討の中で変更をした。展示する収蔵品は限られている。その保護も必要。いつも良いものを展示するとして、資料を傷めるわけにもいかない。ある程度の抑制した展示が必要である。今の説明に対してご意見や確認することはないですか。建物がまだできていないので、設計図に基づき検討しているが、平成27年までに新しい収集資料がないと、手直しも必要かと思う。

C委員：地元配慮して頂き、地元に残された文献の調査や、関係者からのヒアリングをして頂いている。岩槻には人形についての記録が残っていない。ただ、高齢の方がいらっしゃるので、今のうちに記録を残して頂ければと思っている。

委員長：事務局が努力し、聞き取り調査を行っている。地元には文献がないという事である。博物館は実物資料があつてこそ成り立つ。人形組合からも十分な協力を得て、資料の収集を進めて欲しい。事務局の考え方はどうか。

事務局：次の議題で説明を行いたい。

委員長：この他よろしければ、展示についてはこれで良いか。よりシンプルな展示にして、詰め込み過ぎではなく、利用者に楽しく観てもらえる展示にして

欲しい。

A委員：コンセプトについてよろしいですか。地元から、人形中心の展示ばかりでなく、城下町や歴史についても加えて欲しいという要望がある。建設の延期もあるが、その後の検討はいかがか。我々は人形中心の展示と考えており、建物も2,000㎡とさほど広い施設ではない。

委員長：これについて、事務局の考え方はいかがですか。

事務局：基本的なコンセプトは変えない。人形との歴史を未来に継承する施設である。それは以前より申し上げている。設置場所が城址なので、地元での歴史展示についての想いが強いのも事実である。ただ、この施設は教育委員会の管理施設ではないので、展示内容については棲み分けが必要と考えている。どこまでの歴史展示が可能かは、教育委員会との調整しながら検討している。最終的に詰めた展示可能部分について、お伺いをするべく進めている。元々の施設のコンセプトを変えるつもりはない。

委員長：前回、前々回の委員会でも同じ意見があった。コンセプトは変わらないとあった。個人的にも変える必要はないと考えている。展示室の中で歴史を扱うのは難しい。ロビー等で映像なりを放映し、利用してもらうことを検討したい。それでよろしいですか。

A委員：ありがとうございました。

(2) 資料調査等について

委員長：それでは、次の議題について事務局から説明を願いたい。

事務局：(資料調査等について説明を行う)。

委員長：粛々と成果が上がっている。G委員から補足があればお願いしたい。

G委員：資料の調査で、所蔵する日本人形の大凡の確認ができたのではないかと考えている。展示に活かすための基本的な叩き台ができたと思う。収集の方向性も決まると思う。しかし人形によっては200年以上も経っているものもある。修復やメンテナンスが必要である。いかに後世に伝えられるか、次の世代、その

次の世代に伝えていかないといけない。今行っているのは、文化財的観点にたった修復である。それが展示につながっている。岩槻の人形産業は、江戸や鴻巣などと有機的に結びついて成り立っていた。従って調査では周辺部との連携を調べる必要がある。さいたま以外の場所の調査が必要な事もご理解頂きたい。人形文化の中心点が岩槻であると広く発信するためには、周辺部の地域も巻き込んでいかないといけない。他の地域でヒアリングをする事もあり得ると思うがご理解を頂きたい。

委員長：資料調査は進んでおり、展示の方向性は見えたと思う。修復を行っていることが、今の企画展の展示に結びついている。最初は一時的な保存のための劣化を止める作業で、次に修復の方々がさらに見栄えが良くなるように修理などを行った。実際に展示をする際には、クリーニングもしてもらっている。修復は着々と進んでいる。その技術の継承や後継者の育成も必要である。岩槻の人形調査では、岩槻のみならず産業や技術について、地域を広げた調査が必要である。

F委員：修復についてであるが、今修復を行っている方々の技術は大変素晴らしい。この技術を、岩槻の職人たちに指導してもらいたい。修復をしてみたいという意見もある。

G委員：岩槻の職人さんたちに技術が無いという訳ではない。しかしジャンルが違う。文化財の修復についてのご理解が頂ければ、参加してもらい可能性はある。展示したものをみていただいたり、講習会を開催するなどをしていただければ良いか。

委員長：可能性はあると思うが、文化財的修復と、どう組み合わせるか。人形にとって理想的な修復について、時間をかけて情報交換をしながら進める事が必要である。講習の機会があれば良いが、今は日本で人形の修復を行っているのはお一人しかいないのか。

G委員：はい、そうです。また高齢である。横浜人形の家を含め、さまざまな修復を行っている。人形の修復を専業とする人はいないので、その方一代限りである。現在一緒に修復をして頂いている方がいるのは、継承のための小さな流れとなった。人形の修復ができるとなると、全国から依頼があると思う。人形修復も

施設の大きな核として捉えて良いと思う。

委員長：実現していける可能性はあると思う。また今の修復の仕方を記録映像で撮影することも事務局で考えて欲しい。ビジュアル的に見ることができるものを。

F委員：岩槻に人形の施設ができて、修復を手伝えないというのもいかがか。職人も参加できるように御配慮願いたい。鴻巣などの調査も必要というのはわかるが、まずは岩槻の調査をお願いしたい。年配の方ほど詳しいと思うが、亡くなる方もいる。今は廃業している人の中にも、昔の事をよく知っている方がいる。早く調べて頂ければ良いと思う。

事務局：人形組合の12名の方に集まって頂き、話を聞くべき方々の名前を挙げてもらい、リスト化を行った。この中で高齢の方からお話を伺っている。ただ、季節によってお忙しい時期があり、時間を取ってもらえない事もある。

委員長：地元やG委員の御指導を頂きながら進めて頂きたい。

D委員：1番目にヒアリングの際は音声データと文字で起こした原稿を残して欲しい。次に古い職人さんの声を聞くと、岩槻から片柳にかけての独特の方言がわかる。生活の中でどう人形づくりを位置づけているか、民俗的に捉えることができると、観光施策を作っていく上でリアリティーが出る。修復の様子もVTRにしておいて欲しい。3番目は、作る作業の中で話がいろいろな方向に動いていきながら関係性がわかる。どういう活動があり、人が何を考えたかを記録していく。日本で重要な美術館を、地元の人々がどう作っていったか、それを展示して欲しい。また人形がどう飾られていたかという民俗学的な史料があると良い。今は居間、玄関といった所に人形が飾られるが、昔の飾り方があれば写真を撮っておいてもらいたい。NHKのドラマの衣装の一部は岩槻で作られたとも聞いた。雛人形に集約されたものでなくても、メディアとの係わりとか、それらを今記録しておかないといけないと思う。次に展示する時にはそういったもののタグを置いて見るといことができる。記録はきちんと取って頂きたい。

委員長：様々な準備作業が必要という事か。雛祭りの飾りをする家が段々少なくなっている。飾り方の記録も必要か。調査するにも時間や予算は限られている。

また努力した成果は残っても、忘却の中に消えてしまうプロセスを記録する必要があるという事か。

委員長：資料でかなり傷んだものもあると思うが、展示可能なものは何%で、さらに修復が必要なものの概数を教えて欲しい。

事務局：調査の途中である。節句人形、古典人形、それ以外の郷土や世界の人形もある。今進めている修復とは異なる進め方が必要なものもある。まだ検討はしていないが、具体的な数字を提示するのは難しい。

委員長：まだまだ修復が必要なものがあると思う。その点、修復にある程度の時間と予算を掛けて欲しい。そして新しい資料の収集も検討して欲しい。

G委員：今行っている修復は、ある程度修復方法が確立されたもの。しかし郷土人形や世界の人形については、修復方法の検討が必要。今後の課題として考えたい。

委員長：その他のご意見はいかがか。

C委員：過去の資料が埼玉県民俗文化センターにあると思う。映像データも収蔵されているはずで、是非活用して欲しい。

委員長：映像や聞き取り調査の成果を活用できれば、新たに行うより労力が少ない。

F委員：郷土玩具は他県のもものが相当数ある。これらの修復が必要であれば、岩槻で幾らでもできる。郷土玩具を展示すれば、他県の人々も愛着が出るのではないか。

委員長：既に技術が途絶えて無くなった人形もあるだろう。

B委員：ここで行っている事がやっと見えてきたと思う。ここ1年間、調査などがうまく進んできていると実感させてもらった。展示は人形史にスライドした。調査の記録とリンクできる事が望ましい。修復を記録する事は大切な事。また良い材料が流通していた事を知っている人の話も必要だろう。全国的な人形史のストーリーを作っていくことができ、それを表明できれば交流も生まれるだろう。

是非そうして欲しい。修復は、美術の分野でも行われているが、1970年代以降、接着剤が変わり、修復が難しくなった。今後の50年間は、そういった事がクローズアップされると思う。その為にも人材を育てる事も大切。先日外国で素人が勝手に美術品を修復するという笑い話のような出来事があった。多かれ少なかれ、そういった事もある。例えば浮世絵の修復を今の若い人が行くと、書かれている人物の目がパッチリとしてしまう。どうしてちゃんとした修復家が育たないかという、リスクが大きい事やお金にならない事による。数名でも人材が育成できると良い。

委員長：まだまだ課題は山積みであるが、各委員の助けを受けて進めていきたい。

(3) 支援組織づくりについて

委員長：次の支援組織づくりについて事務局から説明願いたい。

事務局：(支援組織づくりについて説明を行う)

委員長：ご指導を頂いているD委員より補足願いたい。

D委員：設置について問題が出た事が幸いしている。1つに、人形組合の建物と言われ組合はそうでないといっているが、人形会館が市民施設として必要だというように、特に年配者の方への理解が広がった。人形会館がうまくいけば、次にも広がる。人形会館に駅から行く場合、自動的に歴史的なものを通り抜けて会館に行く事になる。設置の場所には色々な意見があるが、ルートを考えると必然の場所と思う。次に産業に係る方には高齢者もいる。84歳で健康な方もいるが、世代交替が必要。どう人形文化を普及させるかについて意見を出す作業の一方で、どう生活に活かすという横への拡がりが必要。よそのまちで行っている事も含め、岩槻で行わないといけないと思う。平成24年度にはそういった活動を行った。

委員長：きめの細かい対応をして頂いている。先を見据えた事業の展開を進めてもらっている。人形文化を地元注目してもらえれば、開設時期が延びた副産物になり得る。地元根付く中で支援の輪を広げていくことも事業である。

F委員：支援組織づくりはサポータの方々には頑張って頂いている。個人的な意見としては、周りの人々の考え方は変わってきたと思うが、施設の名称がネックになっている。ここまで名称が施設の計画に妨げになるのなら、何とかならないかと思う。誤解を解かないと、中には名称を逆手にとって、反対意見を言う人もいる。地元の盛り上がりを述べるとなると、名称一つでも大変である。

G委員：講演会が開催された時に博物館と言わずに、なぜ人形会館というのかと参加者に聞かれた。皆さん、この名称は違うと思っている。是非何とかならないかと思う。

A委員：名称の件はお願いしたい。この名称のせいで開館が2年延びたように思う。今の岩槻区民の半分は産業会館ができていると思っている。誤解されている。2年前の選挙の際にも、人形会館建設反対の立候補者がいた。現職の市議員で反対の人もいる。

委員長：計画のネックとなるのが館の名称。これは以前から意見を言っているが、なかなか実現されない。今のご意見も肝に銘じて早い機会に名称の変更をお願いしたい。

E委員：どういうものができるのか、展示のプランが改められてコンセプトが明確になってきた段階だと思う。地域としての産業が浮かび上がってきたので、施設の役割が明らかになり面白い。地域の美術ではなく、社会科の勉強としても訪れることができる。中身が変わっているという事を明らかにする時期ではないか。そのタイミングに合わせて名称があると良い。伝えるタイミングとして良いと思う。

委員長：行政の事情があると思うが、展示も充実した内容になっていると思う。名称をはっきりさせて市民にPRできると思う。充分考えて頂きたい。支援組織づくりの効果を高めるという事も認識して頂きたい。

事務局：名称について、(仮称)人形会館が、施設を表すのに正しいものと思っているわけではない。変更のための検討も行っており、市長に話もしている。歴史に係る4団体からは、名称についても意見があるが、歴史的なもの、または別の

施設を作って欲しいとか、城址公園の構造を直して欲しいとか、次々に意見が出ている。これらについては都市局のまちづくりの中で協議して欲しいとお願いしている。議会からは4団体の考えが出ないと開館のゴーサインは出せないと言われている。しかし結論を出してもらう時期は来ていると思っている。それでないと、平成27年の開館が間に合わなくなってしまう。それらもわかった上で折衝を行っている。

委員長：意見を言う対象ができたので要望を出すという事もあるかと思う。施設の内容を説明した上で、問題を整理して解決を図ってもらいたい。

事務局：4団体との折衝の際に、こちらからの答えも必要かと思う。

委員長：行政的、政治的に施設を見られることもあるだろう。何が必要で、不要かを見極めてという基本的な考えが必要である。5月には市長選もある。事務局には、建設するという考えをはっきりして頂きたい。

A委員：以前にE委員にも岩槻についてのレポートを作成して頂いたが、目白大学の大西ゼミがワッツで研究発表をしてくれた。あの資料が活用できれば、4団体にも説明ができるのではないか。人形が果たした町おこしや、それによる効果など、発表内容を小冊子にまとめたらどうか。数万円の費用ですむと思うが。それを活用してもらえれば良いと思う。昨日開催した講演会も、4団体が来てくれれば良いと思っていた。意識して働きかけをして欲しい。

委員長：その他のご意見はいかがか。

F委員：たかだか名称と言われるが、岩槻のまちな人形会館なので、誤解を招く。4団体の意見の中には、これが多分に影響していると思う。是非検討して頂きたい。

委員長：それでは、これで議事を終了させていただきます。事務局に引き継ぎます。

※議事終了後、うらわ美術館で開催中の「雛の宴パートⅡ」を見学する。

-以上-